

Born to Run



70 回生学年主任 **丹生 憲一**

2 月 7 日（火）は校内長距離走大会でした。

朝から天候が危ぶまれましたが、寒さにも負けず、丹波の森公苑周辺を、500 人を超える柏高生が疾走しました。校長先生の激励のことばにもあったように、一人一人が自分なりに力を出し切れた大会になったと思います。

70 回生関係分のベスト 20 をあげておきます。TOP10 では、1 組白髭一翔君、7 組合田力仁君が昨年に続き、1 位・2 位に、1 組藤井拓実君は昨年から二つ順位を上げ 4 位、新たに 1 組大西貴也君が 8 位に入賞しています。女子では 6 組久下愛理さんが 2 位、3 組細見有李さんが 4 位と陸上部の意地を見せ、昨年入賞者の 6 組高橋理子さんが 6 位、4 組足立涼夏さんが 7 位に、2 組澤野菜緒さんが 9 位に入っています。

おめでとうございます。お疲れ様でした。

< 男子 ベスト 20 入賞者 >

< 女子 ベスト 20 入賞者 >

1	白髭 一翔	13	勝田 幹也	2	久下 愛理	17	岸田 みち
2	合田 力仁	15	白髭 晃大	4	細見 有李		
4	藤井 拓実	18	高見 奨磨	6	高橋 理子		
8	大西 貴也	20	足立 将馬	7	足立 涼夏		
11	中村 大輝			9	澤野 菜緒		



白髭君の独走



久下さん・福西さんのトップ争い



レイチェル・ファンも共に…

9 日の LHR は学年集会で、各教科の勉強法（模擬試験に向けて・3 年生 0 学期に入って）の話を聞きました。

<英語> 単語は横から縦！文法は理屈より覚える。英文を読むときは左から右！模試の解答は後ろから。

<数学> 基礎固めを！信頼できる問題集（チャート・短期集中）をやり切る。インプット～アウトプットへ。

<国語> 教科書を 100 回読む。高校時代に覚えるべき言葉をしっかり覚える。とにかく、読み込むこと。

<地歴> 問題集はコロコロ変えない。一問一答、三回はする。自分だけの参考書を作る。

なかなか、全てを実行することは難しいと思いますが、できることを取り入れ、今日からの学習に活かしましょう！放課後から早速、模擬試験が始まります。（10 日地歴・12 日 AM 国語・数学 PM 英語・理科）

<保護者の皆様へ>

週末、天候が危ぶまれています。万が一、**12日朝6時の時点で警報**が出ていれば、模擬試験は延期、**保護者説明会は中止**いたします。ご了承ください。**警報が出ていなくても**、中止・時間変更があれば**本校 HP のブログ**にてお知らせします。悪路・交通途絶が予想されますので、無理をなさらないようにしてください。

<文化住宅の奇跡> ② 震災を忘れない… 最終回

「Mさん…」

姉弟、Oさん、我々夫婦と大家さんの6人は、冷たくなって掘り出されるMさんを、どんな顔をして迎えばいいのか…口には出さなくても、それを考えて無口になっていました。

大家さんが5人にポットのお茶を分けてくださり、姉弟はご両親のマンションへ帰りました。Oさんは、大家さんの家へ入れて休ませてもらうことにされました。私たち夫婦は、数カ月前まで住んでいた住宅周辺がどうなっているかを見に行きました。町全体が変わり果て、以前住んでいた住宅は、瓦葺の屋根が落ちて、犬5匹と住んでいたおばちゃんが「(犬が)みんな下敷きや…」と涙にくれています。お世話になっていたクリーニング屋のおばちゃんが、

「まだ、中に子供が！子供が！！」と狂ったように叫んでいました。

…かける言葉もみつかりません。

私たち夫婦は、悲しいとか怖いとかいう感情を通り越して、夢の世界を歩いているような心地で、一言も口をきかず町内を一周しました。

壊れた住宅に帰ってくると…なんと！Mさんが茫然と立っているではありませんか？？

「Mさん！！どうしたんですか？！」

私は絶叫しました。(…亡霊じゃないよね?)

「…家が…つぶれてしまいましたね…」

「そうやなくて！…今まで、どこにいたんですか？？」

「…工場ですよ…夜勤でしたから…」

「でも！…自転車が…」

「そんな…こんな寒いのに、自転車乗って行けますかいな？ワシもバスぐらい乗りますよ。」

手を取り合って、よかった！よかった！と喜びました。

「…あの、水道代ずっと払ってなくて…ごめんね〜…」

「何言ってるんですか？！家潰れたから、もう払わんでいいですよ！（笑）」

Mさんの言葉に、あの日初めて笑わせてもらいました。

あの惨状の中で、奇跡としか言いようがないのですが、私たちの住んでいた文化住宅からは一人の犠牲者も出ませんでした。Mさんが夜勤のシフトに入っていなければ…。お姉ちゃんが炬燵にもぐりこんで寝たりしなければ…そんな、ちょっとした偶然が、6人の命を救ってくれたのでした。

毎日生きていることが当たり前になっていると、「一瞬先には死ぬかもしれない」なんて考えることはありません。しかし、交通事故にしても、水害にしてもそうですが、人の命が一瞬にして奪われることは起こりうるのです。その瞬間に悔いを残さないように、今ある一瞬・一瞬を精一杯行きましょう。震災のあと、心に留めてある言葉(韓国の小説「カシコギ」より)をひとつ紹介して、今年の「震災特集」を終わります。

あなたが虚しく過ごした今日という日は、きのう死んでいったものが、あれほど生きたいと願ったあした

